

会議録（概要）

会議名等	平成23年度 第3回四街道市子ども読書活動推進計画策定委員会		
年月日	平成23年11月18日（金）	時間	14:00～16:15
場所	四街道市役所第二庁舎 第二会議室		
出席者	委員 塚本委員 渡辺委員 高橋委員 加瀬委員 齋藤委員 近委員 仲田委員 横山委員 渡邊義幸委員 金子委員 安井委員 事務局 實川教育部長 石田主幹 志村指導主事 伊藤指導主事		
欠席者	委員 大野委員 堀委員		
傍聴人	2人		
<p>—— 会議次第 ——</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 教育委員会挨拶</li> <li>3 会長挨拶</li> <li>4 会議の公開等について</li> <li>5 議題             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 推進計画案について</li> <li>(2) その他</li> </ol> </li> <li>6 諸連絡</li> <li>7 閉会</li> </ol> <p>—— 会議要旨 ——</p> <p>会議次第に従い進行 石田主幹</p> <p>事務局：ただいまから、平成23年度第3回四街道市子ども読書活動推進計画策定委員会を開催いたします。</p> <p>2 教育委員会挨拶</p> <p>實川教育部長：晩秋に入り、景色もきれいなよい季節となった。通勤の電車の中で会長と一緒にすることが多いが、いつも本を読んでいらっしゃる。          今回の計画案は事務局で力を入れて作った。この案をもとに、よい話し合いができるよう、よろしく願いいたします。</p> <p>3 会長挨拶</p> <p>事務局：次に、塚本会長より一言ご挨拶をお願いしたいと存じます。</p> <p>塚本会長：委員の皆さんの意見が形になって計画案が出来上がった。今日も皆さんで知</p>			

恵を出し合って計画を良いものにしたい。よろしくお願いします。

#### 4 会議の公開等について

事務局：それでは、議題に入らせていただきたいと思います。

議事の進行は、策定委員会設置要綱第5条に「会長が議長となる」こととなっておりますので、塚本会長に議事進行をお願いいたします。

塚本会長：会議に入る前に、会議の公開等について、確認いたします。

本日の会議の公開・非公開を決定したいと思いますのですが、議題となる内容は、公開することにより公正かつ円滑な議事運営に著しい支障が生ずるとは認められませんので、公開としたいと思いますのですが、委員の方々いかがでしょうか。また、会議録における発言者名については、明記する取り扱いとしたいと存じますが、併せて委員の皆様の見解をお伺いします。

委員：異議なし。

塚本会長：それでは、本日の会議は公開とし、会議録には発言者名を明記することといたします。

次に会議録の署名人を指名いたします。横山委員さん、よろしくお願いします。

横山委員：了解いたしました。

塚本会長：他に会議録について何かございますか。

事務局：会議録作成のため会議内容を録音したいのですが、よろしいでしょうか。

塚本会長：録音についていかがいたしましょうか。

委員：異議なし。

塚本会長：録音は行って結構です。

それでは、事務局、傍聴希望者がいらしたら、入室させてください。

【傍聴人 入室】

#### 5 議題

##### (1) 推進計画案について

塚本会長：それでは、議事に移ります。議題の1点目「推進計画案について」、事務局から説明をお願いします。

事務局：第2回の策定委員会でいただいた委員の皆様からのご意見をもとに、3回の作業部会を開き、推進計画案の作成に取り組んできた。本日は、事務局が作成した推進計画案について、ご意見をいただきたいと思う。いただいた意見をもとに、事務局で最終調整した後、教育委員会で推進計画案を決定し、12月からパブリックコメントを実施する予定なので、よろしくお願いします。

それでは、まず、「はじめに」と第1章について、説明いたします。

「はじめに」、第1章について説明

※計画案 「はじめに」、第1章 参照

塚本会長：成果が7点、課題が4点ということで、一部修正はあるが概ね前回のおりとのことだが、いかがですか。

成果③で学校図書館指導員の派遣により、読書活動の成果が上がったといっているが、課題①で読書環境の整備について挙げている。学校図書館指導員も人的環境ととらえられるので、わかりにくいと思うが。課題の方に、「働きかけが必要」などと書くとよいのではないか。

事務局：わかりやすい表現にしていきたいと思う。

渡辺副会長：成果④の国の標準冊数の達成率95.7%については、古い本も含んでの達成率なので、本の中身を検討していくことが今後の課題になるかと思う。

塚本会長：副会長の中では、古い本とはどのくらいのものでしょうか。

渡辺副会長：調べ学習に使うデータの載っている本については、5年くらい前までのものにしたい。学校図書館では、1900年代のものも見かける。

塚本会長：20年前のデータでは、調べ学習には向かないですね。

渡辺副会長：バランスを見ながら、データの古い本を廃棄する必要がある。

實川教育部長：課題の中に、「新しい本を入れながら」ということを付け加えたい。

渡辺副会長：司書教諭のことについて、数値目標として「週1時間は活動の時間を確保する」等、明示するとよいのではないか。

事務局：司書教諭については、計画の方策3でご説明します。

塚本会長：それでは、第2章について、事務局から説明をお願いします。

事務局：第2章について説明

※計画案 第2章 参照

スローガンについては、7月の策定委員会で委員の皆様からたくさんのご意見をいただき、作業部会で検討を重ねてきた。市民の皆さんに公募という案もあったが、この計画を推進していくためのスローガンなので、市として、めざすところをスローガンで市民の皆様を示した方がよいという結論になった。

そこで、四街道の子どもたちの実態から、何をめざすべきなのかを考え、今回、「どの子どもみんな本が好き」を事務局の案としてあげたい。

アンケート調査の結果から、本市の子どもたちは読書の好きな子が多いということがわかったが、子どもたち一人ひとりを見ていくと、個人差が見られる。第二次では、「どの子ども」ということに重点を置き、現在あまり本に親しんでいない子についても、周囲の働きかけにより読書が好きになるようにしていきたいと考える。四街道の子どもであれば、「どの子どもみんな本が好き」になってほしいという願いを込めた。このスローガンにつ

いては、後ほど、ご意見をいただきたい。

塚本会長：ただいまの説明について、ご質問等ありましたらお願いします。

金子委員：スローガンについて文言は賛成。スローガンの位置づけはどのようにするのか。計画のサブタイトルとするのか、合い言葉とするのか。

事務局：この計画について皆さんに広めるために冊子もつくるが、概要版のリーフレットを作る予定。リーフレットの中にスローガンも入れてわかりやすくしたい。スローガンの位置づけは、はっきりさせたいと考える。

金子委員：スローガンは第二次計画の目玉とした方が市民にもわかりやすいと思うので、重要な位置づけにしていきたい。単なるスローガンで終わらせないようにしてほしい。

塚本会長：この計画のタイトルだが、スローガン「どの子どもみんな本がすき」を頭にもってきて、その下に「四街道市子ども読書活動推進計画」としたらどうだろうか。スローガンは骨なので。

金子委員：スローガンを達成するための計画とするとよいのではないか。

塚本会長：スローガンについては重要なので、お一人ずつ意見を聞きたいと思いますが。

齋藤委員：身近に感じられてよいと思います。

近委員：小さな子をもつ母親にもわかりやすく、堅苦しくなくてよいと思う。

仲田委員：とても親しみやすいと思うが、ちょっと引かかったのは「どの子ども」という言葉。みんな好きなものが違うので、全員本好きにというのは抵抗を感じる子がいるのかなと思う。

横山委員：親しみがもてて、よいと思う。

金子委員：市民の立場から考えた場合、わかりやすいと思う。

安井委員：去年の国民読書年のスローガンは「じゃあ、読もう」だった。すごくいいなと思った。単純でみんながわかるものにしたい。「読もう、本の力は無限大」など、考えてみたが、ピンとくるものがなく・・・

渡邊委員：教育委員会内の話し合いで、「スローガンに私たちの目指す方向を盛り込んでいなくては」ということになり、公募はしないことになった。言葉からイメージが浮かびやすいものをもって考えた。音も優しい雰囲気でもよいと思う。

渡辺副会長：聞きやすくいいなと思ったが、「どの子ども」の「どの」について、受け止める側がどう受け止めるかなと気になった。

塚本会長：スローガンは「こうしよう」ということなので、「どの子どもみんな本好きに」などにするといいのではないか。事務局でまた検討をお願いしたい。他に意見はありますか。

渡辺副会長：基本方針の中の（１）について、読書環境の整備・充実は大切だが、環境整備だけでは子どもは読まないの、学校教育での読書指導が大切だと思う。

事務局：第３章の方策の中で、学校の教職員に関係することを述べているので、後ほ

ど説明します。

金子委員：基本方針の語尾だが、「努めます」ではなく、「取り組みます」と言い切つてほしい。予算のことなどは、「努めます」になると思うが。

事務局：決意なので、言い切れるところは言い切る形にしていきたい。

塚本会長：それでは、第3章の1について、事務局から説明をお願いします。

事務局：第3章の1について説明

※計画案 第3章の1 参照

塚本会長：ただいまの説明について、ご質問等ありましたらお願いします。

事業1「乳幼児への働きかけ」の「絵本の紹介等」の「等」とは？

事務局：わらべうたや手遊びうたなどのこと。表記するようにしていく。

金子委員：社会教育課は実際にはどのように関わっていくのか。

事務局：子育て学習会など、広く保護者への働きかけを行う。

金子委員：新規事業の「家族読書」についても社会教育課が中心で行うのか。

事務局：「家族読書」運動の推進については、社会教育課が中心で行う。家族全員で本を読んだり、ノーテレビデーを作ったりすることが考えられるが、具体的には、今後、読書活動推進の中心となる推進会議で内容を決めていく。

渡辺副会長：事業1「乳幼児への働きかけ」については、図書館が中心で進めることになっている。これまでもしてきたと思うが、新規事業ということは、さらに広げていくのか、それとも人手が足りないなどの理由でできなかったのか、その辺りを伺いたい。

横山委員：乳幼児対象ということでは新規になる。これまでは「絵本の会」など2歳以上を対象としていた。「絵本の会」「お話会」以外にも情報提供していきたい。

渡辺副会長：今までよりさらに低い年齢を対象にしていくということか。

横山委員：事業の詳しい中身については今後だが、いろいろな働きかけをしていきたいと考えている。

塚本会長：先ほども話題になったが、わらべうたなどの紹介も含めて、いろいろな内容で取り組んでいけるとよい。

金子委員：前回の策定委員会で、齋藤委員が「小さい子への働きかけは大切」という話をしていた。乳幼児への働きかけを今まで以上にしてもらいたい。

塚本会長：事業4の「家族読書」は新しい言葉なのか。

事務局：他市でも使われている。

塚本会長：次に、第3章の2について、事務局から説明をお願いします。

事務局：第3章の2について説明

※計画案 第3章の2 参照

塚本会長：事業18について、こどもルームの本を購入する予算はどこが持っているのか。

事務局：こども保育課が担当している。

金子委員：こどもルームの指導員にお願いして読み聞かせをしてもらうのか。

事務局：現在も指導員が読み聞かせをしており、読書ボランティアもすでに入っているとのこと。こどもルームの指導員には、教育委員会主催の読書活動推進のための教職員研修にも参加してもらえるよう声をかける予定。

塚本会長：次に、第3章の3について、事務局から説明をお願いします。

事務局：第3章の3について説明

※計画案 第3章の3 参照

(2)の小中学校の役割については、配布した計画案には載っていないが、リード文に「司書教諭」のことを付け加えたいと考えている。司書教諭は、学級数12学級以上の学校に置かれることになっており、学校における読書活動推進の中心となる教員である。千葉県では、司書教諭専任（学級担任・教科担任を持たず、司書教諭の仕事に専念する）ではないので、司書教諭が読書活動の推進に専念することは難しい状況にはあるが、学校における読書活動の推進計画、学校図書館の運営計画などを立案したり、学校図書館指導員との連携の際のパイプ役となったりしなければならない。司書教諭が学校における読書活動推進の中心となるようにしていきたい。

塚本会長：ただいまの説明について、ご質問等ありましたらお願いします。

金子委員：事業32に書いてある「拡充」とはどのような意味なのか。

事務局：現在も行っている事業を、もう少し広げて行う場合に記載した。

金子委員：市民にはちょっとわかりづらい。

塚本会長：それぞれの事業がこれまでも取り組まれているものなので、「拡充」と入れなくとも良いと思うが。

事務局：わかりやすい表記にした方がよいので、「新規」のみ表示するようにしたい。

渡辺副会長：司書教諭については、国は12学級以上でなくても基本的には発令することになっているので、全部の学校に司書教諭をおけるようにしていくとよい。

事業27の調べ学習については、年間指導計画に盛り込んでいくと書くことは簡単だが、書いただけで終わらないようにしたい。「学校図書館を利用した調べ学習を1年に1回は行うようにする」など、具体的に推進方策の中に書くことよいのではないか。

事業25のボランティアについては、活動の指針を作って明示するとよい。

事業28については、「適正な廃棄をしつつ、国の定める図書標準蔵書冊数率の100%達成を目指す」などとするとよいと思う。

實川教育部長：司書教諭については、資格を持っている人の人数のこともあり、現在12学

級以上の学校へ置かれている。司書教諭が置かれていなくとも、図書主任がきちんと機能するようにし、学校図書館指導員との連携の中心になるようにしたい。また、読書活動推進の中心となる役割の人の校内での位置づけについて研究していきたい。

調べ学習については、どの学校でも取り組んでいると思うが、会長、どうですか。

塚本会長：どの学年でも取り組んでいるが、具体的にその学習で使う本についてリストアップするとよいと思う。そのリストを見て、学校でそろえていくとよいと思う。

仲田委員：リストアップについては、何年か前に学校図書館指導員でリストアップしたが、授業につながっていかなかった。

塚本会長：学級担任が授業で使いたい本について、学校図書館指導員に急をお願いする様子が見られる。教科書について、学校図書館指導員も見られるように、学校図書館に置くとよい。

仲田委員：何年も前から、学校図書館指導員にも教科書がほしいと市に要望しているが、なかなか実現しない。週に2日しか学校にいないので、授業の様子が見えない。

塚本会長：図書の予算の中から、学校図書館用教科書をそろえられたらよいのではないかと。教育委員会で予算がつけられたらよいが。

事務局：図書の購入は契約で行っているので、契約先が了承すれば買うことができる。教職員用の教科書にプラスで計上できないかどうか、後ほど確認する。

塚本会長：学校図書館指導員が全員教科書をもっていたら、すごい力になる。ぜひ、確認してほしい。

金子委員：先ほど出たボランティアのこと、大切だと思う。ぜひ指針を作ってほしい。また、教科書のことは、私も学校図書館指導員から聞いたことがある。リストをすべての学校図書館指導員が見るようにすることで対応できないのか。

塚本会長：リストだけでは対応は難しい。

金子委員：それでは、教科書を準備してもらったほうがいいですね。

渡辺副会長：教科書は、業者がバーコードをつけないと買えない、ということなのか。

事務局：バーコードとブックカバーがついて、業者からの購入という契約になっている。

渡辺副会長：寄贈図書用のバーコードを貼るのはどうだろうか。

事務局：検討します。

渡邊委員：教師の側も活動をいかに組んでいくかを考えなければならない。子どもの実態に合わせて活動を選んでいく必要がある。教職員の役割について研修を深めていきたい。

塚本会長：教職員の研修、学校図書館指導員の研修が連携して行えるとよい。効果が上

がる。

事務局：現在も学校図書館研究部と学校図書館指導員と一緒に研修を行う機会を設けている。今後も連携を図っていきたい。

金子委員：教科書については、ぜひ学校図書館指導員も読めるようにしてほしい。

塚本会長：それでは、第3章の4、5について、事務局から説明をお願いします。

事務局：第3章の4、5について説明

※計画案 第3章の4、5 参照

渡辺副会長：計画の中にもう少し細かいところまで載せられないか。担当者が変わった際に内容が伝わらないと困る。今の担当がイメージしているものが、次の担当にもきちんと伝わるようにしたい。

塚本会長：会議録も残っているので、それをもとにしっかり申し送りをしていただくようにしたい。

實川教育部長：計画が出来上がっても、計画だけになってはいけないので、会長、副会長のおっしゃるとおりだと思う。どの課も、通常の業務に加えて読書活動推進を進めていくことになる。毎年、少しずつ積み重ねて読書活動を進めていけたらと思う。

金子委員：ボランティア活動の指針については、事業の中で作成を進めてほしいと思う。

塚本会長：次に、第3章の6について、事務局から説明をお願いします。

事務局：第3章の6について説明

※計画案 第3章の6 参照

塚本会長：ただいまの説明について、ご質問等ありましたらお願いします。

この部分がとても重要だと思います。

金子委員：「子ども読書活動推進連絡会」の参加者はとても人数が多くなりそうだが。

事務局：現在、特別支援教育で同じような連絡会をもっているが、参加者は50名～60名であり、同じくらいになるのではないかと考えている。

塚本会長：意見がないようでしたら、第3章の7について、事務局から説明をお願いします。

事務局：第3章の7について説明

※計画案 第3章の7 参照

塚本会長：ただいまの説明について、ご質問等ありましたらお願いします。

金子委員：子ども中心の目標数値となっているが、家庭で読み聞かせをする人の割合を増やすという目標はどうか。「家庭でももう少しがんばってほしい」という意味での数値目標がほしい。

事務局：いろいろな取組をした結果の子どもの姿を見るための数値目標となっている。



仲田委員：中学生は、学校図書館で借りるのではなく、購入して読む子が多い。（２）の数値目標の中学生の「１０冊」は大変かなと思うが。

加瀬委員：中学生は、学校でも自分で準備した本を読んでいる子が多い。部活動などで、学校図書館を利用する時間が少ない。１０冊という目標は、かなり厳しいと思う。調べ学習で学校図書館に行くことはあるが、借りて読むとなると難しいと思う。

事務局：中学校は努力目標となってしまうが、学校図書館の役割を認識してもらう上では大切ではないかと考える。

塚本会長：発想を変えれば達成できるのではないか。子どもが書いた本などを創作コーナーに置いて読ませたり、調べ学習で活用したり、これからの先生方の取組によると思う。放課後ではなく、授業中に学校図書館を活用できるとよい。

渡辺副会長：新指導要領では、学校図書館の活用が強く打ち出されている。昼休みに借りる本のみで１０冊を達成させるということではない。１０冊は高い数値ではないと思う。意欲があれば、短い時間でも子どもは本を借りる。「鍵のかかった学校図書館」を変えていかなければならない。

金子委員：現状、鍵がかかっているとしたら、子どもたちはいつ借りればいいのか。

加瀬委員：昼休みには借りることができるようにしている。

塚本会長：最後に巻末資料について、事務局から説明をお願いします。

事務局：巻末資料について説明

※巻末資料 参照

第１回策定委員会で、読書に関するアンケート調査の結果の表をお渡ししたが、事務局で再度データの見直しをしたところ、修正の必要のある部分が見つかったので、その部分を修正して、見やすいようにグラフ化した。数値については、この巻末資料の数値が正しいものとなる。この巻末資料については、計画案の後ろにつけるようにしたいと考えている。

塚本会長：ただいまの説明について、ご質問等ありましたらお願いします。

渡辺副会長：保護者のアンケート結果（８）で、本を購入する人が多いのであれば、書店の方に会議のメンバーになっていただき、推進計画を知っていただくとよいと思う。

安井委員：ブックトークの研修会に出ると、書店の方や地域の本屋さんが参加している。地域の本屋さんに会議のメンバーになっていただくというのは、いい考えだと思う。

塚本会長：他にどうでしょうか。なければ先に進みますが、今の意見も今後にかかしていただきたいと思います。

巻末資料の検討まで済みましたが、全体として何かございますか。

安井委員：ボランティアをやっているが、ボランティア活動の手引きがあるといいと思

う。どこまでやっていいのかわからないのが現状である。学校の先生方との接点は何もなく、どのようにかかわってよいのかわからない。小学校では国語の教科書も今年度から変わったということで、子どもに薦める本も教科書を見て考えるので、自分で購入した。ボランティア同士のつながりもなかなかないので、手引きについては早急に作成してほしい。

塚本会長：かなり難しいところもあり、学校教育課だけで解決できることではない。ボランティアの気持ちを学校にも知ってほしい。

金子委員：読書に限らず、学校支援地域本部事業とも関係がある。コーディネーターを中心にボランティア活動がスムーズに進むようにできるとよい。

塚本会長：他に何かございますか。

この後、事務局で最終調整して教育委員会で案を決定し、パブリックコメントを実施するとのことでしたが、パブリックコメント等について事務局から何かございますか。

事務局：パブリックコメントについて説明いたします。実施期間は、12月1日～1月5日。資料については、紙媒体では、学校教育課と図書館で配布。推進計画案13ページの図に載っている園や学校等には、紙媒体で配布し、意見をうかがう。また、市のホームページにも掲載し、広く意見を募集したいと考えている。意見の提出先は、学校教育課で、意見の提出方法は、直接持参、郵送、または電子申請になる。提出された意見の概要と、その意見に対する市の考え方については、2月末に市のホームページで公表することになっている。このパブリックコメントの募集については、市政だより12月1日号にも掲載される予定。  
パブリックコメントで寄せられた意見については、次回の策定委員会で委員の皆様にお知らせする。  
次回の策定委員会では、パブリックコメントで寄せられた意見をもとに、作業部会で修正した計画案を提案させていただきますので、よろしくお願いいたします。

塚本会長：ただいまの説明について、ご質問等ありましたらお願いします。

委員：意見なし。

塚本会長：スローガンについては、いかがですか。

高橋委員：「どの子どもみんな本が好き」でよいと思う。「どの子ども」「どの子どもも本好きにしたい」という願いが含まれているのなら。

加瀬委員：大人が働きかけて本好きにしていくという考えだと、「どの子どもみんな本好きに」と「に」をつけた方がよいと思う。

塚本会長：誰がいうかによって違ってくる。子どもがいうなら、「どの子どもみんな本が好き

き」。大人がいうなら、「どの子どもみんな本好きに」。

近 委員：「どんな子どもみんな本好きに」はどうか。

金子委員：「に」が入ったほうが、能動的な感じがする。

事務局：いただいた意見を参考に、事務局で最終調整していく。

## (2) その他

塚本会長：議題2点目「その他」について、事務局から何かございますか。

事務局：事務局からはありません。

塚本会長：委員の皆様から、ありますでしょうか。

委員：ありません。

塚本会長：これをもちまして、議事を終了させていただきます。

## 6 諸連絡

事務局：次回の策定委員会の連絡をさせていただきます。開催日時は1月25日（水）14時からを予定しております。会場は、本日同様、この場所で行いますので、よろしくお願いいたします。

## 7 閉会

事務局：では、以上で第3回子ども読書活動推進計画策定委員会を終わりにします。長時間にわたりましてありがとうございました。